



MSELを使った演習指導計画書の作成要領の骨子

はじめに

MSEL という用語は米合衆国の機関等（国防総省、エネルギー省、FEMA 等）の演習や訓練計画に関する文献を見ているとよく見かける用語である。MSEL は、Master Scenario Event List の頭文字を取った略語である。英語の内容どおり MSEL は演習のシナリオを構成する様々な出来事・事象（イベント）のリストを意味している。MSEL は、演習用イベントを時系列に並べて、これに対応して演習参加者（プレイヤー）に期待する活動等を併記したリストとして作成されている。効果的な演習は、MSEL を基に作成される演習指導計画書によって運営されている。それでは MSEL と、これを中核にして作成される演習指導計画の概要について紹介したい。

1. MSEL の位置づけ

演習（訓練のために役割を決めて組織的に活動する場合をここでは以下「演習」という。）を既に計画された方はお分かりのように、演習計画は通常次のような項目で構成されている。

- 目的
- 実施時期
- 参加者
- 訓練項目と達成目標
- 演習組織と任務
- 想定
- 実施要領
 - ・ 演習の流れ（情報の受け渡し等）
 - ・ 参加者の役割と動き
 - ・ 演習上のルール（時刻、気象、通信回線等演習上の模擬情報・組織・回線等を含む）
 - ・ 演習準備
 - ・ 実行の統制
 - ・ 演習評価
- 安全
- 管理事項
- 報告
- 付属書
 - ・ 演習指導計画（MSEL を基に作成される）
 - ・ 演習ルール
 - ・ 演習場所配置計画
 - ・ 通信計画

- ・使用資機材

このように、MSELは演習指導計画の基礎を為すものであり、演習を運営する側（コントローラー）の資料の一種であるため、一般の演習参加者（プレイヤー）は通常、目にしないことが多い。

2. MSELの意義

MSELは以下説明する内容のように、演習実施要領に沿って演習を円滑・整齊・安全かつ効果的に運営していくための基盤となる文書であり、主として次のような意義がある。

(1) 演習目的達成のための鍵

MSELには演習目的を達成するために必要なイベント（事象：例えば地震発生、火災発生等）とこれに応じてプレイヤーに何を期待するかが記載される。

コントローラーは、このプレイヤーに期待する活動を基に演習を指導或いは援助することによって演習目的を達成することができる。

(2) 実動演習の安全の確保

準備したイベントに対してプレイヤーがどのような行動を採るかを分析できる資料となる。これをもってコントローラーは、前もってプレイヤーの危険な活動を演習ルールで制限したり、監視を強化したりすることができる。

(3) 演習の客観的な評価基準

MSELにはプレイヤーへの期待行動が明確にされるため、これを基に達成度を客観的に評価できる。

(4) プレイヤーの問題意識発揚の促進

準備するイベント（例えば南米での大地震発生情報）によって、プレイヤーの創造（想像）性を掻き立てるよう仕向けることができる。

(5) 演習経費の節減

訓練目的に合致した演習参加者の選定、準備する資機材等を効率的に集合させることができ演習経費の無駄を省くことができる。

3. 演習企画用 MSEL の作成と雛形

訓練目的、想定、達成目標、プレイヤーの階層及び対応能力レベル、訓練項目、その他投入可能な資源（人、物、環境）を考慮して、演習用 MSEL は通常次の手順で作成される。

(1) 演習種類別イベントリスト原票の準備

社内の衆知を結集（ブレインストーミング法等を駆使）して日頃から各種危機想定別イベントリスト原票データベースとして整備する。

表 1. 地震災害演習用イベントリスト原票の一例

No.	イベント名
E1001	地震発生
E1002	避難勧告
E1003	人員掌握
E1004	建物の状態
E1005	停電
E1006	負傷者発生
E1007	断水
E1008	自家発電機使用不能
E1009	ラジオ放送
E1010	火災発生

(2) 演習目的に見合ったイベントを抽出して演習用 MSEL 原票を作成

事前に準備されたイベントリストの原票データベースをもとに演習用 MSEL 原票を作成する。

- (A) 演習計画時、演習の種類別イベントリスト原票から所要のイベントを抽出する。
- (B) 抽出したイベントから期待できる効果を確認する。
- (C) 抽出したイベントをプレイヤーに付与した場合、プレイヤーが危険な行動或いは未対応（非認知）等コントローラーとしての最悪事態を予期して、その対策を検討しておく。

表 2. 地震演習用 MSEL 原票の一例

1	イベントNo.	E1002
2	イベント名	避難勧告
3	イベントの目的	①発災時の人員掌握 ②所在不明者の把握 ③演習への雰囲気づくり < 構内非常用放送 >
4	イベント内容	訓練、訓練、地震の揺れが収まりました。 建物が大きなダメージを受けている恐れがあります。 全員至急避難して下さい。
5	プレイヤーに期待する行動	①ヘルメットを着用し誘導係の誘導のもと整音と避難 ②避難途中の出火、負傷者に対応 ③避難後集合場所にて人員掌握を始める ④不明者の掌握指示 ⑤災害対策本部設置場所検討
6	安全上の留意事項	暗闇下の活動 視界障害物対応

(3) イベントリストを時系列に配置して MSEL を完成（雛形）

前項で作成した MSEL 原票を時系列に並べて一覧にし、イベントは演習目的に合致しているか、狙いに沿って目標を達成できるか等を点検して MSEL を完成させる。

表 3. 地震災害対応演習用 MSEL 一覧の一例（雛型）

実時刻	演習時刻	EventE No.	EventB No.	イベント名	内容概要	期待行動
10:00	18:00	E1001	スタート	地震発生	構内放送	身の安全、携行品確保
		E1002		避難勧告	構内放送	避難、人員掌握
10:02	18:02		B2001	発生	地震発生、情報が入り次第伝えます。	
10:05	18:05		B2002	地震情報	地震情報、震源地、各地の震度	被災地域把握
10:06	18:06	E1003		人員状況	部下残業者人数、不明者	人員掌握、不明者の捜索・救出指令
		E1004		支店報告	東京支店及び神奈川支店からの第一報	対策本部設置場所検討指示
10:07	18:07		B2003	注意喚起	放送局名、火の元注意喚起	自衛消防隊への火災監視の指示
		E1005		電話編成	電話をかけてもつながらない。(固定、携帯)	衛星電話、公衆電話の使用
10:08	18:08		B2004	災害伝言ダイヤル運用開始	伝言ダイヤル運用地域の範囲	情報録音
10:10	18:10	E1006		本館使用可能、自家発電不可	自衛消防隊から建物簡易診断結果「本社ビルに地震対策本部設置可能」	本館に対策本部設置指示
10:12	18:12		B2005	交通規制情報	交通規制のお知らせ	帰宅者等の動き予測
10:15	18:15	E1007		負傷者発見	負傷者2名発見、2名とも重傷、119番応答なし	救急病院の助言と至急搬送の手配指示
10:20	18:20		B2006	避難誘導	エレベーター及び鉄道の停止	帰宅者等の動き予測

4. 演習指導計画作成の準備

演習指導計画はコントローラーが演習を成功に導くために作成される文書である。演習計画作成に先立って次のような準備が必要である。

- (1) 演習目的の把握
- (2) MSEL の作成
- (3) コントローラーによるプレイヤー活動観察ポイントの検討
- (4) イベントに対するプレイヤーの活動予測と対策
- (5) 実動演習の場合の安全対策
- (6) 評価基準の作成と教訓の整理

表 4. イベント毎の演習指導票

No.	項目	内容	備考
1	イベントNo.	E1 002	
2	イベント名	避難勧告	
3	付与時刻	E1 8:02	
4	発信元	コントローラー	
5	あて先	プレイヤー-全員	
6	イベントの目的	①発災時の人員掌握 ②所在不明者の把握 ③演習への雰囲気づくり	
7	イベント内容	<構内非常用放送> 訓練、訓練、地震の揺れが収まりました。 建物が大きなダメージを受けている恐れがあります。 全員至急避難して下さい。	揺れ発生2分後
8	プレイヤーに期待する行動	①ヘルメットを着用し誘導係の誘導のもと整齊と避難 ②避難途中の出火、負傷者に対応 ③避難後集合場所にて人員掌握を始める ④不明者の掌握指示 ⑤災害対策本部設置場所検討	
9	イベントの期待効果	演習への導入	
10	突発行動への対応	演習中の迷子：行方不明者カウント 防火扉の作動： 消灯： 消火器作動：	
11	観察ポイント	①ヘルメット着用率 ②集中電打持込率 ③非常持出物品 ④活動(対応)速度	観察場所：
12	安全上の留意事項	①無意識活動の制止 ②訓練ルール違反の制止 ③廊下下の活動時のコントロール	
13	関連イベント	E1 003、E1 004、E1 005	
14	伝達手段	口電話、口封書、口FAX、口その他()	

5. 演習指導計画の骨子

演習指導計画の主な内容は次のような構成になる。

- (1) 目的

演習目的の達成等、指導計画作成の目的を明らかにする。
- (2) 指導の方針とねらい

コントローラーとして演習運営・指導に関する基本的な方針とそのねらいを明らかにする。
- (3) 演習指導者（コントローラー）組織と任務

コントローラーの任務と組織並びに職責を記す。
- (4) 演習進行要領と評価基準

MSEL を中心にした基本的な演習の進行要領と到達目標達成度を主にした演習活動の評価基準を記す。
- (5) 指導上の留意事項

演習環境、投入資源、演習参加者のレベル等を考慮した指導上の留意事項や安全に関する注意事項並びに特異事象発生時の対応要領を記す。
- (6) 資料収集（観察や文書による）と演習内容の評価

コントローラー（観察係）の資料収集のための要員配置、手段等の要領を記す。プレイヤーの活動を観察するために表 5 のような観察ノート（災害対応演習用）も使用して演習実施状況の資料を収集する。

表 5. 観察ノートの一例

観察日時		
観察場所		
観察者		
区分	内容	備考
イベントNO.		
観察項目	<input type="checkbox"/> 要員数 <input type="checkbox"/> 要員のスキル <input type="checkbox"/> 手順 <input type="checkbox"/> 監督・指導 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 資機材 <input type="checkbox"/> 配置場所 <input type="checkbox"/> その他	
発生時刻		
発生場所		
該当者		
該当事象		
内容(認知した事実のみ記入)		
推定要因及びコメント		
証拠物	<input type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> 書類 <input type="checkbox"/> 録音 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 無	
評価	<input type="checkbox"/> 指摘事項なし <input type="checkbox"/> 指摘事項はあるが目標は達成している <input type="checkbox"/> 目標を最低限達成している <input type="checkbox"/> 条件付で目標を達成している <input type="checkbox"/> 再認識が必要である	
備考		

演習内容の評価の資料は、演習実施間の観察資料の他、演習後の研究会や反省会の成果も用いる。このため演習内容の評価の項には収集した資料の分析評価要領のみならず研究会や反省会の運営要領も含まれる。

なお、コントローラーが演習評価結果を事後の演習に活用できるよう教訓としてデータベースとして蓄積する様式等も計画に含まれる。

おわりに

演習指導計画は、危機に備えて演習を計画される方々にとって最も力を注がねばならない重要な案件であることが少しでもご理解いただければ幸いである。そしてこの演習をやりっ放しにせず、次に活かすためには PDCA のサイクルで実施した演習を評価することが重要である。この評価の際に客観的な基準となり得るツールが達成目標（期待される行動）が具体的に記述された MSEL である。的確な MSEL を持った演習計画こそが演習を成功させるコツである。

さっそく MSEL を使って効果的な演習を企画してみませんか。

なお、この記事は [TRCEYE Vol.59 本番で役立つ危機管理演習／訓練体系 \(40KB\)](#) 及び Vol.60 [「After Action Review」という評価法 \(168KB\)](#) と併せてご覧いただければ一層皆様のお役にたてるものと思う。

以 上

(第 82 号 2005 年 12 月発行)